

けむしのおならへの想い

この絵本を創ることを思いつきましたのは、ある日の早朝けむしがおならをするのか気になり目が覚めて笑ってしまったことが始まりです。

私は、2009年に熊本県天草市に在る知的障がい児施設・天草学園の設計をする機会をいただきました。ここに暮らす子どもたちの中には、親が障がいと認めない子どもや障がいに対しての親の無理解等から起こる虐待や育児放棄、ネグレクト等で親と暮らせない子どもたちも暮らしています。

天草学園の設計コンセプトを考えるために数ヶ所の児童養護施設の視察に赴きました。視察先では、ほとんどの子どもたちの顔が強ばって笑顔が見られませんでした。このことが深く強く印象として残っていることが今でも脳裏から離れられません。

今、大きく揺れ動く社会の中で誰もが豊かさを求めて走りまわっていますが一方では、子どもたちが置き去りにされている現実があります。とりわけ貧困の真っ只中にいる子どもや虐待や育児放棄等いろいろな理由で親と暮らせない子どもたちは笑顔や笑いをどこかに忘れてしまっていると思います。

親も子どももしんどくなれば笑えばほっとするはず・・・！

嫌な時に笑えば涙が出てくるはず・・・！

痛い時に笑えば痛みが和らぐはず・・・！

何もしたくない時に笑えば動きだせるはず・・・！

・・・・・・・・・・！！

でも、笑いをどこかに置いてきています。

そのような子どもたちでも、いろいろな事に興味を持っています。なかでもうんこやおならには特に興味を持っています。

私は、けむしがおならをするのかどうか、ものすごく気になり、そのようなことを考えただけでも笑いがこみあがってきて聞いてみたい気持ちがわきあがってきました。

おならの音は動物それぞれによって響きや大きさが違うことも知りさらに興味がわいてきました・・・。

このようなことで、子どもたちに笑顔と笑いそして興味を取り戻してみればとこの絵本を創ることに動きだしました。

発行を京都新聞出版センターが引き受けていただきました。

キリンや白熊、パンダ等の動物たちのおならのぷっーが聞こえたらびっくりして笑い出すかもしれませんね・・・。

では、けむしのおならはどんな音がするのかな・・・？
カブトムシやダンゴムシのおならはどんな音がするのかな・・・？
・・・・・・・・・・・？

赤ちゃんのおならのぷっーが聞こえると周りのひとはにっこりと笑い愛しく可愛いと思い嬉しくなってきます。

犬のぷっすうー、ライオンのぷっすうー、サルのぷうぷうぷうー、象のぶおぶおぶおーも子どももママやパパや大人も、貧乏でも金持ちでも皆のお尻からでるぷうーは命がある生きているものの普通の営みであり生きている証であると思います。

赤ちゃんのおならも動物たちのおならは、まわりのひとと人をつないでくれて平和な世界が生まれます。

この絵本には希望と夢、そして自然と愛・平和が流れていると思っています。

こどもたちは、それを掴んで欲しいと私は願っています。

子どもたちがどのような境遇に置かれても笑顔を忘れずに、お腹の底から笑い転げて、いろいろな事に興味を持ってくれることを願っています。

そのような思いを込めた絵本「けむしのおなら」をお贈りいたします。

なお、この絵本そのものの中身が音楽として生まれました。作詞はもちろん私ですが、作曲は、あの「ちびまる子ちゃん」のイメージソングの曲を書いた中村暢之さんです。iTune Store で配信されています。

2017年5月2日

(株) 莫設計同人

代表取締役 松村正希